

【主題】『絵本が子どもにもたらす効果と絵本を活かした保育(未満児)』

【なごみ保育園分園】

【金子元子 山岸奈々 中村百伽】

【研究の目的】

新学期から子どもたちが、絵本に親しむ姿が見られた。最近では、乳幼児期の子どもに絵本を与えることが良いと考える人が増えてきた。乳幼児にとって様々な影響をもたらすとされている絵本には、恐らく影響を与えるだけの理由や様々な効果があるのではないかと考えた。そこで、今回の研究では少しでも絵本の魅力や効果について保育者間で共通理解をすることで、より子どもたちと一緒に楽しい絵本を見つけ、保育の中で取り入れていくことで、子どもたちとのコミュニケーションや愛着形成を深めるきっかけになるのではないかと考えた。さらに、絵本の魅力について保護者にも発信していくことで、保育施設だけで保育の質を高めるだけでなく保護者が子どもと気軽にスキンシップがとれる手段になり、子育ての質も高められるのではないかと思う。

また、人気のある絵本や大人が面白いと思う絵本が本当に良い絵本であるのかという事にも着目した。子どもたちの発達段階に応じた絵本とどのようなものがあり、子どもたちとどのように楽しむことが出来るのかまで追求し、子どもの興味関心から絵本をどう活かせばよいのか、それにはどう絵本を見定めればよいのかを考察した。

【研究の流れ】大きく3つのやり方で研究を進める

① 1年を通し沢山の絵本を読む中で子どもはどのような反応をするのか記録をとり集計する。

→学期ごとにまとめ、その時の子ども発達段階に合っている本を絞る。

② 家庭でどのような絵本を普段読み興味をもっているのかを、各月ごとに保護者から教えてもらう。

→子どもの今興味のあるものは何かを子どもの一番近くにいる保護者から教えてもらい、了承を得たうえで、クラスだよりなどで発信することで色々な保護者にも絵本に対する興味関心を養うきっかけづくりを行う。(小規模保育園だからこそ出来る発信方法ではないか。)

③ 園での実践

→保育者が実際にどのような読み方をしているのかどのような読み方をした時に子どもの反応が良かったか等実践した上での結果や効果を保護者に向けて発信する。

◎ 1年間で集計してきた事を元に、現時点でどのような絵本が子どもたちに人気なのかまた、その時の読み方など工夫したところはどのようなことだったのかをまとめる。

【研究前の事前予想】

研究前に、絵本の効果について保育者間で意見を出し合い、大きく3つに分類されるのではないかと考えた。

①情緒の安定

- ・前頭前野の活動が抑制され心地よい感情が湧き、リラックス状態が誘発
- ・自律神経の安定化

②言語発達の促進

- ・耳から得た言葉を知識として取り込み言葉の数が増える。また、言葉の知識が着くことで聞く力が身に付く

③知識量の増加

- ・聞く力が身に付くことにより言語以外の知識の増加に繋がる。(年齢が上がると学力向上)

上記の予想を元に、調査や研究を進めた。

◎教材研究のための実践

調査：【保護者に聞いた自分のお子さんが今はまっているおすすめ絵本とは…？】

今年度バンビ組の保護者と連携して、各家庭で子どもがどのような絵本に興味を示しているかどのような絵本をよく読んでいるのか毎月1人ずつ調査を行い、お気に入りの絵本を読んだ際に、子どもはどのような様子や反応をするのか等調査し、調査結果・絵本を読んだ時のエピソードなどクラスだよりに掲載し、お知らせした。

◎この取り組みを行う理由

この研究を選んだ背景の一つとして、絵本の魅力について保護者にも発信していくことで、保育施設だけで保育の質を高めるだけでなく保護者が子どもと気軽にスキンシップがとれる手段になり、子育ての質も高められるのではないかという思いがあった。子どもたちと絵本を育ちの中で身近に感じ取り入れていくことで、子どもたちとのコミュニケーションや愛着形成を深めるきっかけになるのではないかと考えた。

現在保育を行う保育者の思いの1つとして、子どもの心身の成長を促すための子育ては園生活で出来るだけ多く身に付け発達をしてほしいという思いの保護者が多い傾向にあるのではないかと感じる場面が非常に多い。

例として、子どもの細かな発達や成長を保護者に共有するが保護者の反応が薄く、本来その少しの成長もそれまでの過程を分かち合い、嬉しさや喜び・思いを大好きな保護者から認めてもらうことで次への成長に繋げてほしいと願う。しかし、保育者の意図や願いが、なかなか保護者に汲み取ってもらうことが出来ずにいることが増えてきた。あくまでも保育園・幼稚園は子育てのサポートを担う施設であることが前提としてあるが、時代の移り変わりや社会環境の変化、子育ての価値観の違いなど、昔と今では違いがあるように思う。それは、現在の時代背景が関係しているのではないかと感じている。

保育者の意図を保護者に理解してもらうのは難しいが、保育者の先入観だけで判断し、決めつけてしまうのでは変わることもない。また子どもと気持ちを共有する方法が分からないためにこのような子育てのしかたになっている保護者も中にはいるのではないかと予想した。そのため、今回の取り組みでは、小規模保育事業という環境を活かし、バンビ組に在籍する12名の子どもたちの保護者と協力して今までの育った経験の中で触れたことのある“絵本、というテーマから子育ての中で、絵本を身近に感じ親子のコミュニケーションや触れ合う1つの手段にして欲しいと考えた。そのため、この取り組みを通して現在各家庭で実際に読んでいる絵本や子ども自身が好んでいるものを紹介し、同年代の子が興味を示す絵本はどのような物かあるかを園側が保護者に繋げることで絵本を保護者にも身近に感じてもらうきっかけになるのではないかと考え調査という形で行うことにした。

◎昔と今では子どもを取り巻く環境がこんなに違う

昔と今では子どもたちの生活や様々な環境が異なっています。日本サッカー協会のキッズプログラムのハンドブックによるとU-6年代では下記のような違いがあるとされていると記載されている。

① 他人への無関心

【昔】社会的意識が高く、年代を超えた交流やつながりがありました。学校の先生も責任持って、こどもに厳しく規律やモラルを指導する環境がありました。

【今】(諸事情がありますが)注意したり、叱ったりする人が特別視され、他人のこどもに無関心な大人が増えてきました。規律やモラルを指導する場が減り、学校の先生も厳しく接することが難しくなってきました。

② 家庭環境の変化 しつけの低下

【昔】兄弟も多く、縦の組織がはっきりした大家族でした。全員での食事の機会を通じて、家庭内でも日常的に競争や協調が必要とされていました。また親の責任やこどもに対する要求も多く求められていました。

【今】少子化によって、兄弟が少なく、個室が与えられる等、家族の間での刺激が少なくなりました。一人のこどもに対する親の期待が大きかったり、自分の基準でこどもに接するため過保護になったり、逆に放任になってしまうケースも出てきました。（時代の変化に伴う子育ての違いについては上記のとおりである。）

- ・子どもを取り巻く環境の変化（出典：JFA キッズ（U-6）ハンドブック）
- ・自分で考えるサッカーを子どもたちに。

ジュニアサッカー（少年サッカー）の保護者向け情報サイト サイカク

(<https://www.sakaiku.jp/column/thought/2021/015086.html#>)（一部参照）

◎取り組みの内容

① 保護者へ普段家庭で読んでいる絵本を調査

保護者の皆様へ
なごみ保育園分園へ
おねがい

絵本の大好きなバンビ組です。今年は年間を通して『絵本』に親しみを
持ってもらいたいと思います。園では朝の会や帰りの会、給食の前に絵本
の時間があります。その他にも自由遊びに絵本棚から好きな絵本を出し、
自分でページをペラペラしたり…。保育者の膝に座って絵本を讀んだり…。
たくさん絵本に触れ合っています。そこで、お子さんのお家での様子を教
えて下さい！オススメ絵本や、こんな時に絵本を読んでいます！読み聞か
せのポイントなどなど…。楽しい絵本の時間のお話や困ったことなど、
何でも結構ですので、様子をお聞かせ下さい。情報交換のようにクラスだ
よりに掲載したいと思います。名前も載せて下さい。

1年間を通して、たくさんの絵本に触れあっていきたいと思ひます😊

7月のクラスだよりに載せます。

6月23日（金）までに提出をお願いします。

キリトリ

しばやまとうまくんのお家のオススメ絵本

◎エピソードなど自由に記入して下さい。
(子どもの反応・どんな時によく読んでいるか 等…)

ご協力ありがとうございました！！


② クラスだよりにて情報共有

しばやま とうまくんのお家のおすすめ絵本

「おめでとう」/ 偕成社


おめんをかぶっている動物は誰かな？と
おめんをめくっては動物の鳴きまねをし
たり、顔におめんをあてたり、親子で楽しく読
んでいます！好きなおめんはたくさん
読んでいる分テンションが上がって
破れてテープだらけです(笑)

シリーズもので
現在3作出ています☆



③ 保育者からのコメント

ページが破れてしまうほど読み込んで
いる大好きな証拠ですね☆
好きな本は何度読んでも楽しいですね！
園でも子どもたちが大好きな絵本は
何度読んでも反応が良くお話を読んでいる
私たちも子どもたちの反応を楽しみながら
絵本の時間をすごしています(*^_^*)



◎この調査を行ってみたいの総合評価

今年度この調査を実施し、バンビ組12名の家庭からおすすめ絵本を出してもらったが、どの家庭も快くこの調査に対して、色々と考えながら協力してくれているように感じた。またこのお願いの手紙は、その月に担当する保護者に月初めに渡している為、約3週間の間にじっくり家庭で絵本に親しむ時間を作ってくれているのではないかと思った。また、保護者に少しでも絵本に対する親しみや興味をもつきっかけになっているのではないかと感じた。

◎まとめ

園で読んでいる絵本以外にも、より子どもと身近な家庭で読んでいる絵本や好きな絵本を知ることによって保育者も今の子どもの興味や関心また時期ごとの流行りを知ることが出来る。また、繋がりを持った保育や園で見る絵本の幅を広げられるのではないかと感じている。さらに、これは保護者にも共通して言えることであり、上記にある総合評価でも触れているが、『こんな絵本があったんだ!』『この年頃の子が好きな絵本ってこんな絵本があるんだ!』と発見や興味のきっかけづくりにもなっているのではないかと思う。

きっかけづくりになっていると言える事例として、下記のように絵本を身近に感じてくれている保護者が多くなり、子どもとのコミュニケーション手段として活用しているのではと嬉しく感じた。

(保護者から頂いた連絡帳内容)

(6/7) 諸本りほちゃん保護者より

きんぎょがにげたという絵本を図書館で借りたんですが、きんぎょを見つけるのが上手でびっくりしました!

(7/10) 山崎なおた君保護者より

とうまくんちオススメのおめんですを図書館で借りて読みました!大変気に入ったようで読んでくれと持ってきたり1人で見てたりしてます。2や3も借りて見ようかなと思います♪どうもありがとうございます☆

(3/1) 山崎なおた君保護者より

定期的に図書館で絵本を借りていて、今回は

『サンドイッチサンドイッチ』と『いちご』という絵本がお気に入りです。

いちごの絵本では「いっばーい」という言葉を綺麗に言えるようになりました。絵本通信とバンビだよりのみなさんのオススメ絵本コーナー良かったです!参考になりました。

なおたは3人の中でも1番絵本を自ら取って1人で読んだり、持ってきたりしてくれてました(^^)

保育者参加

6月下旬の1週間保育参加を実施した。保護者には事前の案内文にて読み聞かせを実施して頂くことがあるかもしれない為、お家でよく読んでいる絵本を持参してください。とお願いしたことで予想以上に絵本を持って来て下さる家庭が多かったように思う。また、実際に読み聞かせをお願いしたところ1歳児全員の保護者が快く引き受け行ってくれていたように客観的に見て感じた。

家で子どもが好んでいる絵本を持参して下さった方や園にある絵本の中から保護者が馴染みのある絵本を選び読んでくださる方もいた。

読みかたも、声の大きさ、内容によつての表情作りなど個人差があったが工夫をしながら子どもが興味を示しやすいように読んでいるように感じた。また、子どもたちも普段と違う人に読んでもらうことで子どもたちも集中して見る姿が多く良かった。

子どもの反応としては、自分の保護者が前に出て読んでいる事に少し照れながらも嬉しそうな表情が見られた。また、他児も穏やかに聞き入る様子だった。歌遊びの絵本では一緒に声を出したり、手や体をリズムに合わせて動かし、言葉に対しておうむ返しで反応したりしていた。

(保育者参加の一部様子)



【まとめ】

今年度絵本についての研究を1年間子どもの様子を見ながら研究した。日常的に沢山の絵本を読む中で子どもはどのような反応をするのか記録をとり集計した結果、時期によって下記のような特徴を持つ絵本に人気があったことに気付いた。

さらに、絵本に興味が出てきた夏頃に絵本に対してさらに興味をもてる環境として“絵本のお部屋”を作った。この取り組みの理由としては2つあげられる。1つ目は【絵本を表紙が見える状態で置けるため、どんな本があるか一目で分かり、好きな絵本を子どもが自由に好きな時に手に取りやすくなる】2つ目は【自分で片づける習慣を身につけ絵本を大切に扱えるようになる】この2つのねらいから、子どもたちに絵本の使い方、片づけ方を伝えた上で設置した。絵本をお部屋に設置したことで、子どもたちは好きな絵本を自分で選択し、好きな時に見ることができるようになった。このことから、さらに絵本を身近に感じるようになってきたのではないかと感じている。さらに、片づける際にもこれまでの絵本棚は背表紙が見えるように収納していた為、なかなか子どもたち自身では片づけにくく、出しっぱなしにしてしまう傾向が見られていた。しかし今回の絵本のお部屋は子どもたちも自分で片づけがしやすくなり、読んだらしまう姿や、大切にしようという気持ちを育てることが出来る環境であったのではないかと感じている。



その時々の子どもの興味などから一概にこの結果が正しいとは言えないが、1年を通して子どもの反応を見ながら好きな本を集計したことにより、その時に興味があるものを知ることができ、そこから繋がりを持った絵本や活動を意識して行えたと感じている。

様々な実践や、保護者に発信後頂いた言葉から思うことは、やはり絵本は1つのコミュニケーションアイテムとして有効に活用される事が分かった。未満児の時期は子どもの“読んでほしい！”という想いに精一杯寄り添い、一緒に絵本に親しみを持ち、子どもが安心できる存在と一緒に読んでいるという時間を感じられる事こそが、何よりも、愛着形成や自己肯定感を育むのではないかと考える。それが未満児の時期に1番重要であり、未満児における絵本の活用方法なのではないかと感じた。

また、今年度子どもが好きな絵本から繋がりのある保育を行ってきた活動や絵本の魅力をまとめた内容を年度末に“バンビ組絵本通信”として発行した。発行をした1番の理由としては、保育者は実際に保育の中で絵本を沢山取り入れ、活用方法を身近に感じている為魅力が伝わりやすい。しかし、初めての子育てをする事が多い未満児の保護者はどのような絵本が適しているのか、更にはまだ言葉の発達や理解が乏しい未満児に絵本は不必要なのではないかと考える事もあるのではないかと感じた。保育者が日常の保育の中でどのように活用しているのかを、子どもの様子をふまえて発信することで、自宅でも絵本を活用した楽しい育児に繋がる1つの手段や参考になり、保護者支援にも繋がるのではないかと感じた。

実際に絵本通信を制作しながら、保育者自身も1年を通して絵本から様々な繋がりを持った保育が出来るのだと改めて実感した。更には、子どもたち自身が絵本を身近に感じ『絵本をもっと読みたい!』『この絵本がお気に入り!』とみるみる絵本を好きになっている姿を見ることができたことが、何よりも嬉しく思った。今後も魅力ある絵本に未満児の時期から沢山の触れ、様々な興味へのきっかけとなってくれたらと感じている。